



2013 FUJI CHAMPION RACE SERIES ROUND 3



REVIEW

SILVIA-180/MR2/NA1600

N1600/AE86

ROUND 2



第2戦となる今回、日曜日のワンディで予選・決勝が行われた。予選で総合トップタイムになったのは、NA1600クラス37 四季の森齒科IDIウィンちゃん86 秋元優範、1'59.632、シルビアクラスは2'00.140で24 ディバージョンフスロμS13 瀧下貴之、MR2は78ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行、N1600は100 百武自動車1WINリデューカーEG6、AE86は36 AQUA SSIアクレWレビン 大石重之となっている。決勝ではスタート直後から各クラス激しいトップ争い、総合トップも73小宮が一時37秋元の前に出たが、総合優勝は37秋元が抑えた。シルビア、MR2、AE86は最後までトップ争いが続いたが、シルビア、MR2、N1600は予選トップのマシンがそれぞれ優勝、AE86クラスは40 AS柳本アクレパッシングレビン 柳本文彦が優勝した。レース終了後37秋元は「前半は大変でしたが、小宮さんが止まってしまったのでその後は楽しく走っていました」と話し、シルビア・180クラス24瀧下は「一瞬焦りましたが楽しかったです。自分のペースを崩さずに走りたいのですがなかなか難しいですね」と話していた



RESULT リザルト SILVIA-180

Rank	No.	Name
1	24	瀧下 貴之
2	96	野呂 立

RESULT リザルト MR2

Rank	No.	Name
1	78	谷田 伸行
2	3	土取 謙太郎
3	4	阿部 恵一
4	26	藤永 雅彦

RESULT リザルト NA1600

Rank	No.	Name
1	37	秋元 優範
2	31	高橋 賢一

RESULT リザルト N1600

Rank	No.	Name
1	100	古谷 彰教
2	5	阿部 Jr. 虎鷹郎
3	33	藤井 幸弘

RESULT リザルト AE86

Rank	No.	Name
1	40	柳本 文彦
2	36	大石 重之
3	240	山口 崇
4	16	朝倉 潤司
5	9	鈴木 ひさお
6	41	中村 徹

REVIEW

N1400/N1000/DEMIO(N1)

ROUND 2



このカテゴリーは日曜日に予選・決勝が行われた。日曜日の朝一番スケジュールとなった予選で総合トップタイムを出したのはN1400クラス13 高田眼科MMS岸本RSカルタス 北川信弘 2'09.875。N1000クラスは41 プラクトマルチクラフトヴィッツ 佐藤英二、デミオはR.P.M/H 阿部組WMデミオRPM/H。毎戦大接戦となるこのカテゴリー、今回もかなり魅せてくれるレースが繰り広げられた。N1400クラスでは上位4台が前半はコンマ1秒の中での接近戦、N1000クラスも前半は激しいトップ争い、後半では3番手争いも熾烈といった濃い内容のレースとなった。総合優勝は13北川、2位には開幕戦優勝の21スノコμDLマリンAID82 大竹直、3位は22 ワコーズ松田良ACREちよ82 みかもとひろし、N1000クラスは39 IDIロマンテックDLヴィッツ 黒岩巧。デミオは103 RPM/H。13北川は「車を一生懸命に作ってくれたチームのおかげで勝てました。ベテランばかりなので大変疲れました」39 黒岩は「前半のペースはよい感じだったのですが、無理に抜かないで後半にかける作戦が上手くいきました」103 RPM/Hは「この時期、ストレートが伸びなくてスピード差でラップされ10周走りきれなかったのが悔しい!」と話していた



RESULT リザルト DEMIO(N1)

Rank	No.	Name
1	103	R.P.M/H
2	8	大谷 淳

RESULT リザルト N1400

Rank	No.	Name
1	13	北川 信弘
2	21	大竹 直
3	22	みかもとひろし
4	0	戸敷 直人
5	78	大沢 雄哉
6	7	堀口 和也

RESULT リザルト N1000

Rank	No.	Name
1	39	黒岩 巧
2	41	佐藤 英二
3	32	海野 純也
4	2	あおき みのる
5	83	松本 英之
6	28	川井 秀晃

REVIEW

ROADSTER CUP NC DEMIO RACE ROUND 3



RESULT リザルト RSC NC

Rank	No.	Name
1	64	芝本 淳
2	8	菊池 聡
3	18	ランマン
4	21	新井 敏克



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank	No.	Name
1	75	西山 隆
2	34	常盤 岳史
3	24	オプチマサヒト

REVIEW

ROADSTER 86&BRZ ROUND 2



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank	No.	Name
1	77	山内 正義
2	55	藤巻 靖幸
3	57	いとう リな
4	52	森川 誠一
5	47	落合 立成
6	54	竹内 博人



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank	No.	Name
1	1	雨宮 恵司
2	43	大井 正伸
3	24	田辺 良輔
4	123	二村 慎次
5	3	秋月 義雄
6	18	大野 俊哉

スーパー耐久シリーズ 2013 第4戦

REVIEW

ROADSTER 86&BRZ ROUND 3



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank	No.	Name
1	77	山内 正義
2	25	鵜飼 龍太
3	47	落合 立成
4	55	藤巻 靖幸
5	53	野田 宗男
6	52	山脇 大輔



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank	No.	Name
1	43	大井 正伸
2	1	雨宮 恵司
3	18	大野 俊哉
4	24	田辺 良輔
5	48	芝田 敦史
6	0	松本 章宏

このクラスの決勝が始まる頃には気温27℃・路面温度33℃、晴天に恵まれ爽やかでよい気候となっている。今シーズン全4戦で行われるこのカテゴリーも第3戦めを迎え、ここまでのポイントは64芝本と8菊池が同ポイントトップで並んでいる。今回の予選でポールポジションに決まったのは64 Joy☆abMoty'sNC芝本淳、フロントローには21 新井μおやちRロードスター 新井敏克が並ぶ。デミオクラスでは75 145デミオ改withSKR西山隆がトップ。決勝では予選3番手スタートの8 ド☆ライダーロードスターCKE 菊池が好スタートで2番手に上がるがトップ3台は僅差。64芝本が徐々に引き離すが2番手争いが毎周回激しい争い、ラストラップで8 菊池が2番手を取り返し64芝本、8菊池の順でチェッカーとなった。デミオクラスは75西山が逃げ切った。レース後、64芝本は「とにかくトップを押さえてミスが無いように走りきりました。最終戦では菊池さんの前にいなければシリーズは取れないので頑張ります!」とコメント。「ウェット路面だと自信がなかったので、晴れてよかった」と最終戦を待たずにチャンピオンを決めた75西山は話していた

第2戦となるこのクラスは土曜日に予選が行われ、日曜日に決勝というスケジュールになっている。予選でトップタイムを出しポールポジションを決めたのは86&BRZクラス77 CLUB PANTERA 86 山内正義、2'06.313のタイム、ロードスタークラスは1 コーンズIDI ロードスター 雨宮恵司 2'10.939となった。日曜日の決勝は薄雲が広がってはきたが絶好のコンディション、トップからスタートとなった77山内は周回ごとに2番手以下を徐々に引き離し、コンスタントに周回を重ね総合優勝。一方、ロードスタークラスは毎回の事ながら激しいトップ争い、上位4台がコマ差の接近戦で、コントロールライン上では1雨宮がトップで通り過ぎるが各コーナーでは18 大野と43大井、24 田辺が代わる代わるトップになっている。最終ラップの最終コーナーを最初に立ち上がってきたのは18大野だが、チェッカー直前で1雨宮が前に出て優勝した。77山内は「開幕戦よりクリーンなレースが出来ました。ドライの方がマシンセッティングは出ていたので晴れて良かった」と話し、1雨宮は「勝てちゃいました!最後はスリップを使って抜けました」と喜びのコメント。

SUPER TEC

ロードスター (NA6)・86&BRZ第3戦は8月10日(土)スーパー耐久レースとの併催で行われた。9:00から予選が行われ、12:45に決勝スタートというスケジュールだ。気温も35度を越えかなり暑くなったこの日、予選でトップタイムを出したのは86&BRZクラス77 CLUB PANTER 86 山内正義、フロントローに並ぶのは25 KeePerSAMURAI86 鵜飼龍太。激戦のロードスタークラスの今回トップからのスタートは43 カーアイランドμロードスター 大井正伸、隣には18 コーンズIDIロードスター 大野俊哉が並ぶ。86&BRZクラスは77山内が逃げ切って優勝し、最終戦を待たずにシリーズチャンピオンを決めた。激戦のロードスタークラスはやはり今日のレースも激しいトップ争い、トップ4台の激しいバトルとなり、今回も並んでチェッカーを受ける状態でそこを制したのは43大井だった。77山内は「今日、優勝してシリーズチャンピオンを取りたいと思って、気合を入れて臨みました。N1としての86最初のシリーズは絶対に取りたいとおもっていたので嬉しい」とコメント43大井は「暑かったし、とにかく必死で走っていました。耐久では勝っていますが、スプリントレースでは15年ぶりの優勝でとても嬉しいです」と話していた

Inter Proto Series Round 1 Review

Inter Proto Series

REVIEW



Inter Proto Series
Round 1
Gentleman Driver
Race 1

今年新たに始まったこのカテゴリーはマシンのオーナードライバーをジェントルマンドライバーと呼び10周・15周の2レースを行い、プロフェッショナルドライバーと呼ばれる国内最高峰カテゴリーを走るプロドライバーが同じマシンで22週の1レース行うという形式で行われた。栄えある最初のレースのポールポジションは3 INGING MOTORSPORT ト部治久 1'52.708のタイム、続くは19 YUSHIN TEAM A・Q・MF+伊藤良男。ローリング形式でスタートが切られ、1周目でトップに立った36 MYZ 三浦勝、3ト部と19 伊藤との3台が激しいトップ争い。3周目にダンロップコーナーで36 三浦と3 ト部がアクシデント、これによりSCが入り5周目に再スタートとなる。トップに出たのは19 伊藤、徐々に引き離しにかかり、その後方では16 ララバルーザ 渡邊久和と2 BENT 青木三秀の激しい2番手争いが続く。そして、再スタート時のペナルティ等の結果、10周で争われた開幕レースを制したのは16 渡邊だった。レース後「スポーツ走行はしていたものの初参加のレースな上に初開催のレースで優勝できて嬉しい！スリップストリームというのも初めて使いました」と喜び語った。



RESULT	リザルト	IPS Gentlman-1
Rank	No.	Name
1	16	渡邊 久和
2	19	伊藤 良男
3	37	澤田 透
4	2	青木 三秀

REVIEW



Inter Proto Series
Round 1
Gentleman Driver
Race 2

日曜日に行われたインタープロトジェントルマンクラス・レース-2は15周で行われ、レース-2のグリッドはレース-1の結果順となっている。ポールポジションは16 渡邊和久、隣に並ぶのは19 YUSHIN TEAM A・Q・M F+ 伊藤良男、レース-1に参加できなかった4 RSS AKIRAは最後尾からのスタート。オープニングラップの混戦を抜け、順位を上げてきたのは開幕戦ポールの3ト部と4 AKIRAだ。3ト部は3周目にはトップに立ち9周目には1'52.199のコースレコードも更新しながら順調にトップの座を守る。4 AKIRAも10周目には2位まで追いつき、レース終盤には16 渡邊が3番手となり、この順位でチェッカーを受けた。4 AKIRAは賞典外のため、16 渡邊が2位、19 伊藤が3位に繰り上げとなった。優勝した3 ト部は「昨日のレースがあのようになってしまったので、今日はどうしても勝ちたかった。初のカテゴリーで初ポールと初優勝、富士山の世界遺産登録発表とも重なってとても嬉しいです。このカテゴリーは横溝くんと同じマシンに乗るので教えてもらえるところがたくさんあり、勉強になります」とコメント



RESULT	リザルト	IPS Gentlman-2
Rank	No.	Name
1	3	ト部 治久
2	16	渡邊 久和
3	19	伊藤 良男
4	37	澤田 透
5	2	青木 三秀

REVIEW



Inter Proto Series
Round 1
Pro Driver

インタープロト プロフェッショナルクラスはトップカテゴリーに出場しているドライバー達の熱い戦いとなる。予選で1'46.671のポールポジションタイムを出したのは4 RSS 平川亮、続いて1'47.889で3 INGING MOTORSPORT 横溝直輝がフロントローに並ぶ。こちらもローリング形式のスタートでオープニングラップから激しい戦い。4平川は上手く2位以下を押さえ、コンスタントにラップを重ねていくが、2番手争いは3横溝に加え、37 J-Gear号COOLSHIRT 蒲生尚弥、19 YUSHIN TEAM A・Q・M F+ 平中克幸、2 BEND 田中哲也が絡み激戦が続いた。レース中盤で4平川、37 蒲生、19 平中の順となり、22週のレースはその順位でチェッカーとなった。レース後4平川は「初めてのカテゴリーで初優勝できてとても嬉しい。マシンも安定して乗りやすかったので安心してレースが出来ました。後ろは徐々に引き離せたので、気にせずに走れました」とコメント



RESULT	リザルト	IPS Pro
Rank	No.	Name
1	4	平川 亮
2	37	蒲生 尚弥
3	19	平中 克幸
4	2	田中 哲也
5	16	影山 正彦